

1 自然と人口

練習問題

P 5 1 (例) 温帯おんたいの地域ちいきに人口が集中し、乾燥帯かんそうの地域には人がほとんどくらししていない。

2 (1) イ

(2)記号 ウ

理由 (例) 冬の気温が、ほかの3都市よりも低いため。

3 (例) 今よりも、海岸線が内陸に入りこんでいたと考えられる。

《解説》

1 オーストラリアの人口分布から、東部の温帯地域に人口が集中していることが分かります。首都のキャンベラや、オーストラリア最大の都市シドニーも、オーストラリアの東部に位置しています。

内陸部の乾燥帯にはさばくが広がっているため、あまり人がくらししていません。

2 アは仙台せんだい、ウは北海道あほしりの網走かなざわ、エは金沢こうすいりょうのグラフです。エは冬の降水量が多いことから日本海側の気候を表したグラフと判断はんだんできます。

3 縄文時代じょうもんに入ると、気候あたたが暖かくなり、大陸の氷がとけたことなどによって海水が増えました。そのため、低地には海水が入りこんでいたと考えられています。

旧石器時代きゅうせつぎには日本列島は、中国やロシアなどがある大陸と陸つづきでしたが、気候が暖かくなり、海水面が上がったことで日本列島が大陸から切り離はなされました。

P 7 1 A (例) 冬の降雪量が多い気候であり、雪に対する備えそながしっかりしているので、少ない雪では大きな災害さいがいがおこりにくい

B (例) 雪が降ると災害がおこりやすい

2 (例) 日本が梅雨つゆに入るのは6月から7月にかけてであり、日本に台風たいふうが多く接近・上陸するのは7月から10月ごろにかけてである。このことから、会話は7月ごろのものと考えられる。

3 (例) 世界にくらべて日本は、防災設備ぼうさいせつびが整っていると考えられる。

《解説》

1 新潟県の平野部では冬になると雪がたくさん降り、5cmや10cmくらいはすぐに積もってしまいます。そのため、人々も雪に対する備えがじゅうぶんできています。

東京などの都会ではあまり雪が降らないため歩道もすべりやすくなっています。少しの積雪でも人々に注意をうながさないと大きな災害につながる可能性かのうせいがあります。

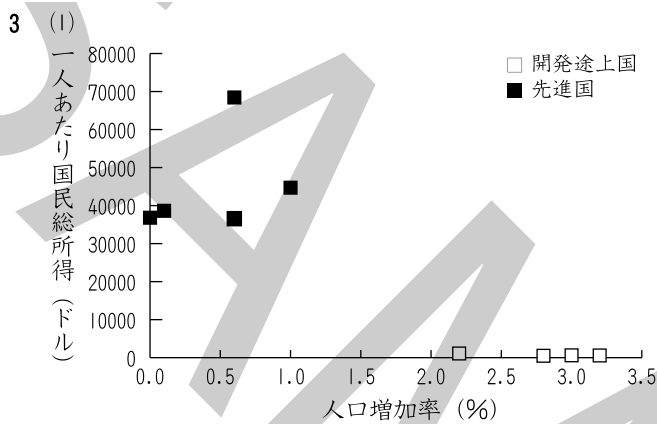
2 梅雨の時期とかさなって台風が上陸すると、大雨をもたらし、洪水こうずいや土砂災害どしゃを引き起こすことがあります。

3 日本は環太平洋造山帯にふくまれる国であり、地震はひんぱんにおこっています。2003年からの10年間だけでも、マグニチュード6.0以上地震の回数は300回以上おこっています。しかし、地震に備えて家のつくりがしっかりしていたり、防災訓練が行われたりしており、災害による死者の数は、世界的に見るとそれほど多くありません。

P 9

- 1 (例1) 安全な水が確保できず、感染症などの病気にかかりやすいため。
 (例2) 医療があまり発達していないため。
 (例3) 地域紛争にまきこまれて亡くなることがあるため。

2 (例) 人口増加抑制政策をとってしまうと、貴重な労働力である子どもの数がへってしまうため。



(2) (例) 一人あたりの国民総所得が高い先進国の人口増加率は低く、一人あたりの国民総所得が低い開発途上国の人口増加率は高くなっている。

《解説》

- 1 アフリカ諸国やアジアなどの開発途上国では、乳児死亡率が高くなっています。医師が不足し十分な医療を受けられないことや、安全な水を確保できないことなどのほかにも、食料不足によって十分な栄養をとることができないことなどもあげられます。
- 2 開発途上国の人々にとって、子どもは重要な労働力です。そのため、子どもがたくさんいれば、その分仕事は楽になります。しかし、子どもが増え、人口が増えると食料が不足してしまうなどの問題も起こります。
- 3(1) グラフを見ると、フランスの統計が入っていないことが分かります。